



平成31年度 教育行政方針



教育長 都築公人

次代を生きる子どもには、自ら課題を発見し、解決に向けて思考・判断し、自分の考えを表現する力が求められています。また、人として、豊かな心を持ち、周りの人たちと協調し、互いに高め合うことのできる人間性を高めていくことが重要です。学校は、未来を担う子どもがたくましく生き抜くために、これらの資質・能力を育てていきます。

高浜市では、「第6次高浜市総合計画」のもとで策定した「教育基本構想」の基本理念の実現に向けて学校・家庭・地域が連携を深め、子どもの学びや育ちのつながりを大切にしてきました。そのために、多くの「ひと・もの・こと」に関わりながら学ぶ喜びや、成長の過程を認められる喜びを実感する経験を、子どもに繰り返し体験させ、「学び続ける力」を培ってきました。

現在、新学習指導要領の完全実施に向けて計画的に実践を進めています。特別の教科道徳をはじめ、外国語活動・外国語科、プログラミング学習、プログラミング的思考やICTを活用した授業実践など、さらに推進します。そして、子どもが学びや育ちをつなげ、「主体的・対話的で深い学び」を充実させることがで

きるような体制を全教職員で構築します。

この春、高浜小学校の新校舎が完成します。今後、地域交流施設を併設し、地域と学校が協働する市民の学び舎となる複合施設として生まれ変わります。いじめや不登校、外国籍児童生徒や特別な支援を必要とする子どもの増加、教職員の業務改善など、学校が抱える課題に対し、園・学校と家庭・地域が力を合わせて、子どもを育てる教育環境をつくります。

日本は少子高齢化、人口減少による危機を感じる時代となっています。

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」、この将来都市像を実現するのは、魅力的なまちづくりと、そこに生きる人の育成であると考えます。今を生きる子どもが、将来、社会に出て活躍し、未来の高浜を創る原動力となる人材に成長することを願ってやみません。子どもは、さまざまな人と関わりながら学び合い、自分の成長を実感することで、自己肯定感や自己有用感が生まれます。そして、学び続ける力が湧き、学んだことを生かしてよりよい社会を築くという意識や行

動につながります。そのために、今こそ学校、家庭、地域で協働して子どもを育てていかなければなりません。学校は、その地域を映し出す鏡であるといわれます。多くの方々に支えられ、構成される一つの社会である学校を、みんなの力で育てていきたいと考えます。

高浜市教育委員会は、高浜教育ビジョンである「高浜を愛し、高浜の良さを学んで、高浜でたくましく生きる未来市民の育成」の実現に向けて、家庭や地域の皆さん、各種団体の皆さんのご協力、ご指導をいただきながら、これからも地域社会と協働する学校づくりを推進してまいります。

※本文は市議会3月定例会で行った教育行政方針演説を要約したものです。

